

	一般的名称	報告の概要
816	エストラジオール	20-74歳の女性を対象としたケースコントロールスタディにおいて、エストロゲン・プロゲステリン併用療法により、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
817	イトラコナゾール	12例の健康成人を対象とした無作為化交差試験において、イトラコナゾール併用により、フェキシフェナジンのAUCが増加した。
818	クラリスロマイシン	一医療機関において、ビノレルピンを投与された非小細胞肺癌患者を対象とした後ろ向き研究において、クラリスロマイシン併用により好中球減少の相対危険度が増加した。
819	塩酸マプロチリン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。
820	イトラコナゾール	12例の健康人を対象とした自己対照試験においてイトラコナゾールとの併用により、イミダフェナシンのC _{max} ,AUCが有意に増加した。
821	エポエチン α (遺伝子組換え)	人工膝関節形成術症例74例を対象とした貯血式自己血輸血の際のエリスロポエチンの使用群と未使用群の比較においてエリスロポエチン使用例では術後の出血量が有意に多かった。
822	インドメタシン	原発性水痘または帯状疱疹の診断を受けた患者の2つのコホート研究により、NSAIDs使用の場合、水痘および帯状疱疹ウイルス感染による重度の皮膚及び軟部組織合併症のリスクが高まることが示唆された。
823	塩酸ノルトリプチリン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。
824	マレイン酸フルボキサミン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。
825	ジクロフェナクナトリウム	非ステロイド性消炎鎮痛剤 (NSAIDs) あるいはアセトアミノフェンによる治療を受けた50歳以上の患者において、NSAIDsとアスピリンの併用使用により、NSAIDs単独使用時に比べ、上部消化管に対する有害事象で入院するリスクが高まることが示唆された。
826	ホリナートカルシウム	術前化学療法としてFOLFOX4による治療を受けた結腸直腸癌の肝転移患者54例を対象としたレトロスペクティブ比較研究において、2例がGrade4の脂肪肝から肝不全にいたり、うち1例が死亡した。
827	ノルエチステロン・エチニルエストラジオール	新規乳癌と診断された女性150名を対象、健康女性を150名をコントロールとしたケースコントロールスタディにおいて、経口避妊薬の使用者は、乳癌発症リスクが高まることが示唆された。
828	エストラジオール	卵巣癌と診断された女性を対象としたケースコントロールスタディにおいて、エストロゲン長期単独療法使用者では、上皮卵巣癌発症リスクが高まることが示唆された。
829	プロポフォール	ICUの重症患者において、プロポフォールを投与したところ、心不全をもつ患者群では、プロポフォールのクリアランスが低下することが示唆された。
830	アスコルビン酸	酸逆流モデルラットを用いた試験において、アスコルビン酸と亜硝酸ナトリウムを併用投与により食道癌発生が促進されることが示唆された。
831	マレイン酸フルボキサミン	うつ病と診断された患者において、抗鬱薬を現在使用している場合、脳血管事象が発症するリスクが高まることが示唆された。